

■ 3 実質的な側面について（話の内容、受け答えなど）

面接で話す内容などの実質面のポイントは、

- ・ 聞かれた質問に対して、経験を踏まえて、具体的に心を込めて答える

ということです。

暗記してきた内容を一方的にペラペラ話すことや、書かれたものを棒読みするように話すことは、絶対にやめましょう。そのような話し方をしたのでは、コミュニケーションにはなりません。面接とは、あくまでも「面接官とのコミュニケーション（対話）の場」なのです。そのことを忘れないようにしてください。以下の点に注意して、質問事項に関する答えを準備していきましょう。

◎ 3 - 1 面接官の質問を正しく聴く

まず、大切なのが「問われたことに対してしっかりと答える」ということです。

面接官の質問を正しくとらえられずに、的外れな答えをする受検者も少なくありません。

冷静に正しく質問を聴いて、それに対してしっかりと答えるようにしましょう。

あらかじめ答えを準備していることにより、質問に合わせた答えではなく、「自分の準備してきた答えに合わせて質問を理解」してしまうこともあります。また、「自分が言いたいことに合わせて質問を理解」してしまったり、面接官が本当に聞きたいことに対して答えていなかったりと、あらかじめ答えを準備しておく場合の弊害もあるのです。その点には十分な注意が必要です。

まずはしっかりと面接官の質問を聴きましょう。「正しく聴く」ということから面接が始まるのです。

◎ 3 - 2 自分の経験を踏まえて話す

次に大切なのは、「経験を踏まえて話す」ということです。

質問内容にもよりますが、自分が経験してきたことを回答の内容に入れると、面接官に具体的なイメージを喚起することができます。またその話は、「経験したその人にしかないオリジナルなもの」になるわけです。

「誰でも話せるわけではない、経験に基づいた話」ができることで、自分固有のPRができます。

また、面接官の心の中にも具体的な形で印象に残るのです。

質問によっては、経験していないことが話題に上がることもあります。その場合は、正直に経験がないことを伝えるべきです。しかし、たとえ少しでも自分の経験から語れるものがある場合は、できるだけ自分の経験（感動や実感）を入れながら語るようにすると強い印象を与えることができます。